

絆きずな 10号

平成28年9月13日

毎週木曜日は「人権学習の日」です。自分の言動を振り返り、さまざまな人権問題について考えることで、自分を磨いていく日にしましょう。

「妹とともに」

私には、3つ年下の妹がいます。未熟児で生まれた妹は、「小頭症」という重い障がいを背負っていました。そのため、5歳までは立って歩くことも言葉を話すこともできませんでした。

今は、特別支援学校に通い、スプーンでご飯を食べたり、走ったり、三つぐらいの言葉ならつなげて話すこともできます。でも、まだ、生活全てにたくさんの人のたくさんの手助けが必要です。

妹に障がいがあるということで、今まで辛い思いをしたことが何度もありました。一番嫌だったのは、一緒に外出した時です。妹は、機嫌が悪くなると、それがどこであろうと座り込んだり、大声で叫んだりします。その時、周りの人たちから、じろじろ見られたり、中には、気味悪そうにわざわざよけて通る人もいて、私は恥ずかしくてたまりませんでした。いつかたまらなくなって、ついに母にくっついてかかったことがありました。「なんで、なんで私だけこんな思いせんといけんの！私もみんなと同じように、話したり、遊んだり、できる妹がほしい！」しまいには、涙で言葉ができませんでした。言っではいけないことなのも分かっていました。母はそんな私を悲しそうに見ていました。

「人権作文」より

〔感想より〕

1年生

- ◇ 障がいのある人を、じろじろ見たり、気味悪そうにしたりするのではなく、優しい声で「お手伝いすることはありませんか。」と声をかけることで、その子も救われると思うので、そういう声かけが必要だと思いました。お姉さんも、とても苦しい思いをしているけれど、一番苦しいのは、妹さんだと思うので、妹の立場に立って、優しく接することが大事だと思います。

2年生

- ◇ 私の母は、障がい者施設で働いています。その話を聞くと「大きな声とかを出す人もいるけれど、その人もその人なりの理由があるんだよ。」と教えてくれました。そして、私の親戚の人も、話すことが少ししかできなかつたり、発作を起こしたりすることもあるけれど、一緒にいると、その子の笑顔が見られたり、少しずつ言葉を覚えたりしていくことが、すごくうれしいです。言葉がうまく通じないこともありますが、その人もその人なりに、一生懸命話しをしている姿を見てあげてほしいです。

